

人・音・夢



おかや音楽協会会報

MUSE

2014年 冬号

発行元 おかや音楽協会

第七十回市民音楽祭

三十一団体の合唱と合奏が

カノラホールに高らかに響く

十一月三日の朝はカノラホール周辺のあちこちで、出場する団体の真剣な練習を耳にし、目にし、音楽への熱い思いを感じさせられました。

おかや音楽協会の林新一郎会長の『職場や学校に、地域に、岡谷の音楽文化を大いに広め伝承していきましょう！』の挨拶をかわきりに本年七十周年という節目を迎えた市民音楽祭が開幕しました。幅広い世代、三十一団体の約一二〇〇人が出演し、合唱や楽器演奏などの活動成果が発表されました。



カノラ少年少女

合唱団の四名が司会を担当。周年特別ゲストのゆる

キャラ、スケート

の森の『ケート

ちゃん』、県の『あ

るくま君』も登場

し和やかな雰囲気で行進していきます。うなぎの街岡谷の『すわ湖太郎&うーなちゃん』が残念ながら浜松へ出張のため欠席との案内が会場の笑いを誘っていました。

第一部の一番は、スズキ・メソード岡谷



諏訪支部の皆さんの演奏でした。

髪の毛が寝癖

で跳ね上がり、

気にして頭を手

でおさえて出て

きた子がいまし

た。が、どなた

か『大丈夫だよ。』

と声をかける場

面もありました。市民参加の音楽祭は、限りなくアットホーム。バイオリンのふく



よかな音色とともに温かさを感じさせられます。



もひととき目立ち素敵でした。

記念ゲストとしてお迎えしたのは飯田市を拠点に活動されて

いる「アンサン

ブル・ファン

ファール」の皆

さんです。吹奏

楽の全国大会に

も出演されてい

る「プラスアン

サンブル」です。

「信濃の国」など

息のあった見事

な演奏に魅せら

れました。



アンサンブル・ファンファール

岡谷東部中学校
&長地小学校コー
ポ合唱団は、合同
練習は二回だけと
のことでしたが、
伸びやかに微笑ま
しく演奏をされま
した。曲目は『赤
とんぼ〜どこかへ
帰ろう』と仮装大
賞のような凝った



ウルトラしみん合唱団



東中&長地小コラボ合唱団

ステージ演出の『ふ
じ山』でした。市民
音楽祭では、中学と
小学校のコラボは今
回が初めてです。
市民参加を掲げ今
年で編成六回目とな
る音楽祭のための公
募合唱団「ウルトラ
しみん合唱団」と、
同じく公募オケ「ご

ちゃまぜウインドオーケストラ」も、ステー
ジいっぱい力強い演奏をさました。

紙面の都

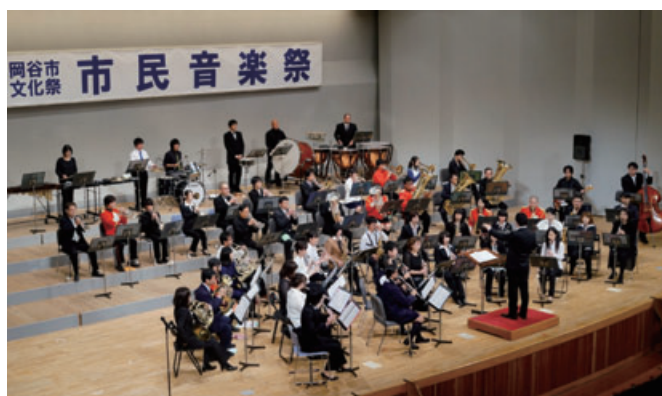
合で素晴ら
しい演奏を
された全団
体を紹介で
きず残念で
す。

記念事業

としてロ
ビーに市民
音楽祭のあ
ゆみをパネ
ルにまとめ
展示を行
いました。

第一回おかや市民音楽祭は昭和二十四年に
開催され全国でも六番目、地方都市では初
であった事や当時の音楽祭の写真展示、多
くの諸先生方が指導してこられ、岡谷の音
楽文化の礎を築いてこられた歴史が多くの
来場者の目を引いていました。

最後に、恒例となった岡谷讃歌「浪漫街道」
と「ふるさと」を参加者全員で大合唱。



会場が一体となつて音の世界に包まれまし
た。

人・音・夢 みんなで紡ごう音の絹糸

次の周年にむけ、更に音楽に溢れる街にすべ
く音楽文化を大いに広め伝承していきましょ
う。

第七十回市民音楽祭が盛大に開催できまし
たのも、御協力頂きましたスタッフの皆様、参加
団体の皆様、カノラホールはじめ市関係者のお
蔭と感謝申し上げます。

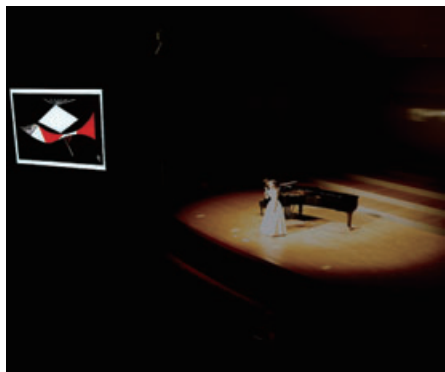


地上の祭

岡谷市出身の童画家・武井武雄の生誕百二十年記念のプレイベントとして、また岡谷市とカノラホールが主催する「第七回緑と湖のまち音楽祭」メイン企画として、武井武雄の世界を歌おう「地上の祭」演奏会が十一月二十四日に開かれました。

武井武雄の傑作のひとつでもある、銅板絵本の大作「地上の祭」の詩にカノラホールが東京音大の翹場富美子さんに作曲を依頼し、混声合唱組曲

「地上の祭」が生まれました。合唱は一般公募による「地上の祭」合唱団が担当。おokaや音楽協会も協力という立場で様々な



堀内千咲さんの独唱

工夫をしながら練習を積み重ね演奏会に臨みました。

一年の練習期間を経て演奏会を迎えたのですが、その演奏会の三か月前に、作曲家の翹場富美子さんが練習の様子を見学にいらしてくださいました。練習の後、地上の祭の作曲にあたってのインタビューをさせていただきました。その一部をご紹介します。

武井武雄の「地上の祭」の詩は本当に普通の詩じゃないですよ。一筋縄ではいかないというのか、普通、作曲家は自ら選ぶ詩ではないですね。詩を何度も読んでイメージして、音楽がすぐに出てくるような詩ではない。イ



練習風景

メージを作ろうとすると武井武雄の詩の世界は、どこか一行困る言葉が出て来るんです。たとえば二曲目の「遊戯」の『遊戯には奢侈（しゃし）税はかけられないものと判明した』で、詩は終わる。これでおわり？と、どうしたものかと思いました。

はじめは、佐藤館長からは四曲から五曲に選んでもいいといわれましたが、人生を「誕生」から「休息」まで十二の詩で表現しているものを選んでいいのかと。それは武井武雄に申し訳ないという気持ちになりました。それに来岡して、本物の「地上の祭」を拝見



翹場富美子先生

させていただき、圧倒的な存在感があり、この世界を変えてはいけないと思いました。この真つすぐいかなない屈折したところが、武井武雄の良さかなと思ひ、このままがんばって書いてみよう、十二曲全て作曲しました。

さて、十一月二十四日音楽祭当日。音楽祭のはじまりは、岡谷市出身のメゾソプラノ・



カノラ少年少女合唱団

堀内千咲さんが湯山昭作曲・歌曲集「白い花と赤い鳥」を独唱。次に、岩川智子作曲・児童合唱「こどものために」より「ぶんぶんぶん」と「が

んがらがん」の二曲を、カノラ少年少女合唱団が軽やかに歌ってくれました。そして、前半の最後には、混声合唱組曲「幻想の国」より「乳の家」と「青の魔法」の二曲を、歌い人ごんべと「地上の祭」合唱団有志により、厚みのある混声合唱で歌い上げました。

そして、後半。混声合唱組曲「地上の祭」の初披露です。総勢百七十名もの「地上の祭」合唱団の歌声は圧巻でした。指揮は佐々木憲治さん、ピアノは山岸茂人さん。静かな一滴の雫から始まるような「誕生」から、女声のみの不思議な表現をした「空想」。アンサンブルやソロの入った「戀愛」。さらに男声の力強い迫力のある「戦争」や曲中に二人のソロが役者のように歌い上げた「制覇」、最後を眠るような、休むような、繰り返す自然の営みを表現した「神様」から「休息」へと組曲が静かに終わりました。演奏をした人々も聴いて下さった方々も大きな感動と、武井武雄の新たな世界が広がった演奏会でした。

「地上の祭」演奏会は、来年五月三日、横浜市の「横浜みなとみらいホール」で再演されます。



地上の祭合唱団



各地の音楽祭の様子探訪

第6回笛吹音楽祭に行ってみたら こんな様子でした。



山梨県の東部、いかにも音楽都市のような名前の笛吹市で開催されている第六回 笛吹音楽祭に行ってみました。信州人には笛吹より石和温泉の名前の方が馴染み深いかもしれません。訪問したのは三日間の開催期間の中間、九月十五日でした。

当日は無料のロビーコンサートと公開練習というスケジュールでしたので混雑を予想していましたが、会場の笛吹スコレーセンター周辺は閑散とした様子で拍子抜け。

しかし一步会場に入るとカノラの小ホールよりやや広い会場は練習に打ち込むオーケストラ参加者の熱気であふれていました。演奏者は一万一千円の参加費を払って東京など各地からこの音楽祭に参加しているそうです。

練習していた曲はブラームスの交響曲第二番。

練習の休憩時間に指揮者兼音楽監督である藤原義章さんからスタッフの皆さんからお話しをお聞きする事が出来ました。

藤原さんは東京都交響楽団創立団員であり、新日本フィル首席ピオラ奏者です。

Q・どのような経過で笛吹音楽祭が生まれたのですか

A・生涯学習推進目的でもある笛吹スコレーセンター建設から携わった実行委員長が、音



指揮をする藤原義章さん

楽が大好きで藤原さんと交友関係がありました。藤原さんは秋田県の「たざわこ音楽祭」、そして北斗市の「八ヶ岳音楽祭」の創設から携わって来られた方です。笛吹にも音楽文化の拠点造りをとの熱い思いを藤原さんに伝え、市の助成金を受け第一回笛吹音楽祭が誕生しました。基本的に三つの音楽祭とも、プロからアマチュアまで自費出費でエントリーし、三日間で練習から最終日の発表までを行う形式をとっています。

Q 自由にエントリーされた方が練習に参加しコンサートを行うという事は二日間でオーケストラをまとめ上げるという事ですか。

A その通りです。招待演奏者であるプロ

奏者が主要パートに一名ずつ入りますがそれ以外は一か月前までの受付順で定員に達すると締切りますから、初参加のメンバーも多いです。技量の違う参加者を如何にまとめ上げるか、練習風景こそこの音楽祭の最大の見どころとも言えます。

Q 笛吹音楽祭を将来どのようにされていきたいとお考えですか。

A 有名にしたいとか大それた事は考えていません。継続させること。それだけです。この形式はプロもアマも合宿のような環境で練習する中、交流が生まれ、感動が伝播します。まだまだ都会からの演奏参加者が多いですが、長年続ける中で地域でも参加する人が増え音楽文化の核となりえると確信しています。

Q 苦勞されたことは何ですか

A 開催三年目で市や県からの助成が終了し、予算の用途が立たなかった時、継続を断念する事も考えましたが、止めてしまったら二度と出来ないとの思いから多くのスタッフが無駄な回り企業などに理解を求め資金を捻出出来るようになるまででした。

まだまだ地元の方の音楽祭への認知度は高くないので歴史を重ねる中、造り上げていきたいと思っています。

プロのトランペット奏者川田修一さんにこ



の音楽祭の感想をお聞きました。

普段は他の仕事をされているアマチュアの方との合宿練習は様々な世界の話も聞けてとても楽しい。大変な事はプロは本番に焦点を合わせ、練習はポイントを抑え軽く吹くようにしていますが、アマチュアの方はいつでも本番さながらの音圧で吹くのでそれに合わせるとけっこう大変。でもそれがいいんです。と楽しそうに語って頂けました。

笛吹音楽祭は地域の音楽祭というより、ハイアマチュア〜セミプロ級演奏家の為の音楽祭という色合いが強く、開催を重ねるうちに、地域にも音楽文化を根付かせたいという岡谷とはまた異なった音楽祭でした。広く見回せば高額な参加費を支払っても演奏したいという方が結構いらつしやるという事、またゼロから地域に文化の核を構築する大変さを知りました。また外からの視点で岡谷に目を向ければ市民による手造りの音楽祭が七十回を数える歴史があり、地域あちこちに合唱団が根付きカラホールという優れた音楽堂を持つ現状が誇れるものである事、そしてその宝を大切に育てる事の大切さを再認識する事の出来た取材でした。



おかや 音楽さんぽ



岡谷駅から線路沿いに東へ五〇〇メートルほどのところに、線路の高架橋・丸山橋があります。結構交通量の激しい橋です。また、歩道も歩きやすく、朝夕は岡谷南高校や岡谷東高校の生徒が自転車や徒歩でよく通る橋でもあります。

今年の夏のこと。めったに徒歩では通らなかったこの橋を、夕方散歩で歩いていた時のことです。私は宝物でも見つけたようにウキウキしてしまうような発見をしたのです。その橋の両側にあったのは、昨年12月から歌っている武井武雄さんの「地上の祭」の14枚のレリーフではありませんか。今まで車でも徒歩でよく通っていたのに、ここにこのような素敵なものがあることに気がつかなかったのは私だけでしょうか。それに気がついたのも地上の祭の合唱曲を練習してきた成果なのかなと、ドキドキ感の自己満足に浸りながら、それからは意識して丸山橋を通っての散歩を続けました。

秋になり、なかなか難しい地上の祭もだんだん自分のものになってきました。
詩や曲が頭から離れなくなり、橋を通るたびにレリーフをみながら、小さな声で歌ってしまいます。
今日はどれにしようかなんて思いつつ！

平成十五年の橋の架け替えの折り、ここ丸山橋に地上の祭のレリーフが設置されました。丸山橋にしたのは武井武雄の代表作でもある「地上の祭」を人通りの多いところにと願ったことだそうです。

この代表作が合唱曲となったのは岡谷にとっては素晴らしいこと。合唱練習に行き、回を重ねるごとに、素敵な曲だと感じ、好きになっていきます。昨年十二月合唱団の発会式に主催者より目的として「音楽を通じ、武井武雄の魅力を広く知ってもらうきっかけになればいい」ということをお聞きしました。

せっかくなので今後は、街のどこかに、今回の地上の祭の合唱曲を聴きたいときに、スイッチオンすればいつでも聴くことができる場所があったら嬉しいなと、秋を散歩しながら思わず夢を描いてしまいました。

九月の散歩





心にのこる曲

ステージ

ステージ 唐沢史比古 作詞

出会えたこの星で 出会えたこの世界
あなたと同じ風に 今 吹かれています
響くよその声が 響くよ 胸の中
あなたと同じ風を受けそよいだから
ステージ 一度だけの ステージ
今 ここに 生きている
ステージ 一度だけの ステージ
今 歌が生まれる
ありがとう 涙たち
ありがとう 笑顔たち
ありがとう みんな みんな
今 輝いている
ステージ 一度だけの ステージ
今 ここに 生きている
ステージ 一度だけの ステージ
今 歌が生まれる



唐沢史比古先生

ご退職後の先生は ◎創作活動（作詞・作曲）
◎指揮者 ◎音楽アドバイス（保育園・小中学校・高校・シニアスクールにと現場に出向き指導・合唱コンクール審査員等々） ◎裏の畑の野菜作り…とお忙しそうです。

「音楽は人を創るから楽しい！大事にしたい！」と素敵な笑顔で熱っぽく語る先生！音楽の楽しさを皆に伝えてくださる先生！先生のたくさんの作品をあらこちらで歌ってほしいなあと願わずにはいられませんでした。

十一月初め、カノラホールで小学校のある楽会があり聴かせていただきました。それぞれ特徴を持った学年の発表は感動に包まれた素晴らしい音楽の展開でした。あつという間の三時間半。心踊る幸せなひと時を過ごすことができました。最後に全員がステージに上がり十年間も音楽会の最後に歌い続けているという・ステージという曲を聴かせてくれました。その天使の歌声には思わず涙がこぼれました。

この曲の作詞・作曲をされた唐沢史比古さんは箕輪町にお住まいの元小中学校の先生です。感動のあまり、この曲はどんな時に生まれたのだらうという素朴な想いから、お会いしてお話をお聞きしてきました。

今うたが生まれる ～「ステージ」によせて～

唐沢史比古

このステージという曲は、小学校6年生のひとりのクラスに出会えたことで生まれました。そのクラスは何年も私の曲を何曲も歌ってくれていました。その年、SBC合唱コンクールに出場し、県大会で代表に選ばれ、東京で開かれた東日本優秀演奏発表会で長野県民謡の拙作「秋山のよさ節」を合唱してくれたのです。私は忙しくてその会場に行けませんでした。

二学期の終わり、冬の風が吹くようになった頃、そのクラスから招待状が届きました。「学級音楽会を開きます。ぜひ来てください。お待ちしております。」というのです。私はすぐに出席することを決めました。どんな子ども達どんな風にうたっているのだろう！とわくわくしました。すっかり冬になった12月の半ば。学級音楽会に行ってみて驚きました。子ども達が自分達の手で準備、進行、出演し、キラキラとした瞳を輝かせ、生き生きとした素晴らしいハーモニーを創り上げていたのです。最後に同声3・4部合唱「のよさ節」を聴いた時、私の胸にジーンとした熱いものがこみ上げてきました。その時にこの子ども達に歌をプレゼントしようと思ったのです。もうすぐ卒業を迎えるその子ども達にその熱い想いを伝えたかったのです。

曲と詩は同時にできました。あの合唱が大好きな子ども達に、もうすぐ卒業を迎え、みんな離れ離れになる子ども達に、素晴らしいクラスを創った子ども達と先生に、この気持ちを届けたい…。不思議なもので、子ども達の顔やクラスの歌声が浮かぶと、自然にずっと詩と曲は生まれてきました。そしてすぐに手紙を添えてお贈りしました。

何週間がたって、連絡がありました。「ステージを合唱にできたので聴きに來てください。卒業前に学級のラストコンサートを開きます」というものです。なんて素晴らしいエネルギーでしょうか！そして卒業前にあのクラスの子ども達が、あの時初めて「ステージ」を歌ってくれたのです。そのまっすぐで透明な歌声にまた胸を揺さぶられました。

この曲は、それぞれの方がそれぞれの想いで歌っていただくことがよいのです。皆この星に生まれてきて、様々ないのちに出会えて、いのちの歌をうたっているのですから。ステージはひとつとして同じものはないはずです。



CDと楽譜

平成二十五年度

おかや音楽協会のあゆみ

●四月二十一日(日)

総会、交流会 (内容はMUSE三号に特集)



●六月一日(土)

おかや音楽協会 会報

「MUSE」第三号発行

四月の総会・交流会特

集・音楽協会についてのアンケート結果報告

歌魂部会の活動について・第七十回市民音楽祭・

音楽さんぽ・会長コラムなどを掲載

●六月二十三日(日)・三十日(日)

親子の！歌の時間(カ

ルチャーセンター)

●七月十三日(土)

七月十四日(日)

JAMCA信州演奏会

開催協力 (岡谷

合唱団、歌い人ごんべ、

岡谷せせらぎ会、川岸

女声コーラス、音協事

務局)



●七月二十日(日)

岡谷市民音楽祭の歴史を語る会

岡谷市民音楽祭のルーツを知る地元の音楽の

重鎮にご臨席頂き、黎明期から音楽祭の発展す

る様子や苦労話、当

時の時代背景などを

貴重な資料も交えな

がらお教え頂きました

た。この成果を元に市

民音楽祭にてパネル

展示を行いました。

●十月九日(水)

LCV FMの番組

で、市民音楽祭、諏訪

湖マラソン応援隊についてPR

●十月十二日(土)

おかやフェスタ テラ

スコンサート

ごちやまぜウインドオー

ケストラ アンサンブル

Milou 赤塩正樹さん出

演(音協、市民音楽祭P

R活動)

●十月十三日(日)

つなごうすわ湖コン

サート グランドフィナーレ 赤塩正樹さん「命

の水よ」のバックコーラスで出演



●十月二十七日(日)

諏訪湖マラソン応援

隊

昨年より始めた諏

訪湖マラソン応援隊

は、当会員以外に市民

音楽祭公募のウルトラ

しみん合唱団の方など

加わり四十名以上の参加がありました。市民体育

館裏のコース沿いで最後のランナーが走り抜ける

まで、歌でエールを送り続けました。

応援隊参加者からは「大きな声で歌って、私もすつ

きりした!」という声が聞かれました。応援に来て

いた周囲の方々からも「ランナーだけでなく、私た

ちまで励まされた」というお言葉をいただきました。

会終了後、マラソン走者の方から「歌声に励ま

されて涙がでそうになった」など、感謝のメールを

頂きました。ご協力ありがとうございました。

●十一月二日(土)

笠原書店リニール記念ミニコンサート アン

サンブルMilou 出演

(市民音楽祭PR活動)

●十一月三日(日)

第七十回記念岡谷市民音楽祭主催

●十一月二十七日(水)

歌集プロジェクトチーム会議

その他 各部会 運営会議開催



コラム……カノン④ 会長 林 新一郎

去る十一月三日、岡谷市の音楽の祭典がカノラホールで盛大に開催された。私は自宅から徒歩で会場まで行ったのだが、市役所前広場へ左折すると小・中学生が先生の指導の下、発声練習をしている場面に遭遇した。清澄な秋の空気と共に、正に天使の声が庁舎前広場にこだまして誠に素晴らしいプロローグであった。音楽に親しみ音楽文化の伝道者達の瘦身のコンサートは年毎に充実し、岡谷市の文化に厚みを添えている。

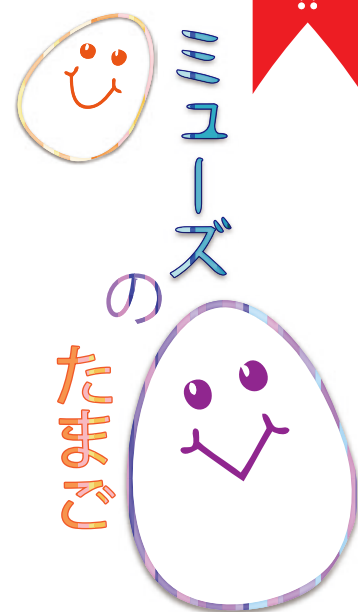
さて、音楽により街起こしをしている福島県郡山市をご存知の方も多いと思うが、昭和二十九年、郡山音楽協会、郡山青年文化協会そして郡山市の協力

によりNHK交響楽団の公演が開催された。四千人の大観衆が集まりオーケストラに聴き入ったという。まさに音楽を愛する人々の悲願が叶った演奏会であった。聴衆の深い感動はその後大きなうねりとなり、「音楽都市こおりやま」として全国に認められる音楽の街づくりの原動力になったのである。感動が大きなエネルギーとなり、街を変え、音楽が郡山の風土にまでなっていくプロセスをコラム・カノンで順次掲載していきたいと思います。岡谷の文化活動の隆盛の為に少しでも参考になり、音楽の街づくりの一助になれば幸甚に存ずる次第です。

今年一年間おかや音楽協会にお寄せ

いただいたご支援とご厚情そしてすべての会員の皆様に深甚なる敬意と感謝を申し上げ、迎える新しい年が飛躍の年でありますようお願い申し上げます。





このコーナーでは、市内の子供たちの音楽活動をお伝えしていきます。

岡谷小 140 周年

今年、市内では岡谷、川岸、湊の三つの小学校が歴史ある開校百四十周年の年を迎えました。そして岡谷小学校では記念活動として子供達がオリジナル記念ソングを作成しました。

一学期には、六年生全員が岡谷小の良いところや思い出を書き出して、音楽担当の先生が作成した作曲シートに各自好きな歌詞を書き、与えられた音の中から、自分の好きな音を選んでいくという作業が始まりました。夏休みには、有志の子供たちが学校に集まり、集まったシートの中から、一つひとつ選定したフレーズを繋いでいって作詞作曲。そうして完成した曲「心は

馳せる岡谷小」が十一月八日、カノラホールで行われた百四十周年記念音楽会で全校児童によって堂々と歌い上げられました。

子供たちの真剣な眼差しと、澄んだ歌声に包まれたオリジナルソングは、自分達の通っている岡谷小への愛を感じさせてくれるとてもすばらしい仕上がりで、聴き手の心に強く響きわたりました。子供たちの力によって本当にすごいなと実感。十年前の百三十周年記念の時にもオリジナルソングを作成し、それを今も歌い継いでいるそうです。音楽に、歌に、熱い思いを見せてくれた岡谷小学校の子供たちでした。



「心は馳せる 岡谷小」

作詞作曲 岡谷小学校六年生

あかしあ窯で思い出やくよ
マラソンコース みんなで走る
息をきらせて登る坂道
「心は馳せる」未来へと
実りの丘 緑につつまれ
どんぐり広場 自然たくさん
リスもかけ回る カモシカの森
小鳥さえずる あかしあの丘
光りかがやく 諏訪湖と山々
葉が音をならし 心落ち着く
みんななかよし あいさつ元気出る
笑顔素敵な 岡谷小



東部中学校 合唱部



今回の取材は、このところめきめきと実力を

つけ、今年のNHK全国学校音楽コンクール長野県大会で金賞を受賞した岡谷東部中学校合唱部の練習にお邪魔しました。

SBC子供音楽コンクールを前に休日返上で練習が行われていました。

部活は基礎トレーニングから始まります。

部員は教室いっぱいに広がり三年生の中村詩織部長を中心にストレッチ、腹筋を約十五分間行い体をほぐします。システム化され必ず行われているメニュー



です。生徒同士でコミュニケーションを取り合い、出来具合の確認が終わると、林のぞみ先生が加わり更に体をほぐします。今のブームはご当地方言版のラジオ体操第一の曲による体操で、日替わりで方言が変わります。今日は関西版でした。「ほな、いきまっせ」などの掛け声に、笑いもまじり体も気持ちもほぐれてリラックスしていきます。更に入念にストレッチをしてようやく声出しに入ります。顔

づくりから表情を確かめ、体全体を使ってイメージしながら声を発していきます。隣り同士の距離感やコミュニケーションをとっても大切しているのが伝わってきます。そして三十分も過ぎる頃課題の曲の練習が始まるのです。

曲目は横山潤子作曲の「百八歳まで」。部員全員でディスカッションを重ねて選んだ逸曲だそうです。広い音楽室が震えるかと思うほどの声量でメロディーが流れ始めると、その瞬間鳥肌が立つほどに何かが心に入り込んでくる感覚を覚えます。

合唱部が新一年生を迎えるために毎年一月頃につづっている「合唱部語辞典」という小冊子を見せていただきました。合唱用語とその意味を十三頁にまとめた一冊は毎年生徒達が付け加えたり修正をしながら自分たちの言葉で作り上げています。林先生が大切にしている、何のために誰のために歌うのか、その目的を自分達で明確にし、その上に東部中学カラーをつくりあげている、その根底に感動を覚えます。辞典の最後は林先生の名言集です。中でも目を引いたのは「人に優しく音に厳しく」の一文です。林先生の人生



観が詰まっているようです。

地域交流活動にも積極的に参加しています。

東堀ふれあい昼食会・清水学園・いちい学級・小井川小学校などに訪問して合唱を披露する事で皆さんが喜んでくれる姿は、生徒にとっても大きな喜びと励みとなっているそうです。訪問先の方と一緒に歌う場面では人と人との繋がることが実感するなど得るものが多いそうです。

代々立候補で選ばれる正副部長に部活動の感想等をインタビューしてみると、特に夏の窓を締め切った教室での練習などきつかったこともあるが、やり遂げた喜びや歌っていることに幸せを感じていたり、歌に関して違った解釈を話し合いを通して一つにしていくところにやりがいを感じていたり、苦手な部分を克服しながら成長した実感を感じているようでした。厳しさの中にも先生との信頼関係、絆の強さを感じました。

合唱を通じて、人としてのバランス感覚と、社会で役立つ人になってほしいという思いが伝わってきました。

生徒の皆さんには、音楽を楽しみながら人を幸せにすることが出来る豊かな人生を送ってほしいと期待しながら取材を終えました。



林のぞみ先生





ラララ・カンガルーさんが、十月二十日に諏訪湖ハイッでコンサートを開催しました。昨年に続き二回目で今年も大勢の親子に音楽の楽しさをお届けしました。ごみ箱やバケツに障子紙を貼って作った太鼓でソーラン節を響かせ開幕。わらべうたメドレー、トル

親子deわくわくコンサート 会場にはリズムと親子の笑顔が広がった!

ラララ・カンガルー

新企画、音楽協会に所属されている、各種団体を突撃レポートして、その活動を皆さんにご紹介していくコーナーです。



供も大人も笑顔でいっぱいです。

『子供たちと音楽を楽しみたい』の思いで活動するラララ・カンガルーさんは、昨年四月に結成。団員は県内の各地に散在していて、育児休暇中の教員、職場に戻られた教員がメンバーの中心だそうです。

代表である田中裕美さんより寄稿していただきました。

私達のグループは、都合のつくメンバーで集まり練習し、発表に向けての企画打ち合わせを行いました。また、ボイストレーニングを受けることで、発声を学んできました。

子育てや家事をしながらの練習は、思っていたよりも大変で、子どもの体調や都合によっては練習を欠席することもあります。ですから皆揃った練習はとても貴重なものでした。

しかし、大変だったというよりも、発表に向けて

やり通してきて良かったという気持ちの方が強く残っています。練習に行けば、同じ子育て中の仲間がいます。時には育児の悩みを打ち明けたり愚痴もこぼしたりしながら、互いに共感し合い、かけがえない絆が生まれたと感じます。そしてそんな話をしている最中も、横を見れば我が子が手作りの太鼓を楽しそうに打ち鳴らしていたりします。皆で音楽を楽しみながら共に過ごしてきた時間は、とても素晴らしい時間でした。

そしていよいよ迎えた本番当日、あいにくの雨の中での開催となりましたが、百四十名の親子が来場して下さり、一緒に音楽を楽しむことが出来ました。私達にとつて忘れがたい貴重な経験となりました。

私達のような子連れのグループが音楽活動を続けていくことは容易ではないかもしれませんが、今後も続けていきたいという強い思いがあります。良きアドバースがありました。是非教えてくだ



さい。

またララ・カンガルーは、その年に参加できる人が、できる範囲で活動しています。一回の参加も大歓迎。「私音楽好きなんだけど、どこか発表の場はないかしら?」と思っているママさん、ぜひ一緒に活動しましょう!



ふらっつと

幼稚園ママさんコーラスの仲良しメンバーで結成された「ふらっつと」さんを突撃訪問しました。



でした。

思った通り、賑やかで楽しい雰囲気包まれた、練習風景がそこにはありました。

諏訪湖ハイツのボランティアルーム、ここがそうだと言わんばかりの歌声が道案内してくれま

す。・・・『私も一緒に

歌っちゃおう』と

少々の決断を持って

部屋の扉を開けたの

若きお母さん方のフレッシュな歌声、タンバリンに太鼓、笛に鈴などでリズムをとり、ピアノの伴奏が入って、そこにいる者は誰でもリズムに乗せられ、思わず歌い出したくなるような気持ちにさせられます。

十二月九日の「こどもの国」のクリスマスコンサートに向け、熱心に段取りを確認しながら、歌うメンバーの皆さん。歌って、踊って、お話をするディズニーマの世界と、ちょっと早いクリスマスの曲メドレーを聴かせていただきました。

おかやボランティア連絡協議会に登録して、時々、老人ホームでのボランティア活動も行っているそうで、合わせて子供向けのコンサートも行いうというのは、とても歌の幅広さを感じま



す。

『ちよつとこの部屋少し暑くない』とつぶやくメンバー。部屋が暑かったのか・・・皆さんが熱かったのか・・・。

大きな大きな情熱を見せてもらいました。

ふらつとさん曰く、『仲良しの八人でしかやれないこともある。

人数の少なさを逆に魅力に変えて、心をこめて、歌を届けていきたい。メンバーが勤めを持つようになり一緒に練習というのが厳しい時もあるけれど、目指すものはいつもみんな同じ。これからもふらつとらしさを大切にしていきたいと思います。』とのことでした。

一つひとつのステージを、毎回、メンバー全員で和気あいあいと構成を考え、組み立てていくそうです。そのためか、ステージでは、ひとり一人が溢れる笑顔と、あたたかな雰囲気会場の観客を魅了していました。これからの活動が益々楽しみな、素敵なコーラスグループ「ふらつと」さんでした。



編集後記

★創刊から第四号出版までの二年間、多くのコンサートや練習を取材する中で報道の特権？

出演者の裏の様子も見ることができました。そして改めて思う。「歌う阿呆に聴く阿呆、同じ阿保なら歌わにゃ損々」(佐々木)

★取材では、伝えたい内容や想いが、あまりにも多くありすぎて限られた文字数で伝える事の難しさを感じました。(今井)

★秋の散歩は、毎日違う表情の赤や黄色の葉っぱに心が奪われる。音楽も文章を書くことも豊かな表現あつてこそ人の心を揺らすのでしよう。やっぱり、自然はすごい。表現力を私にも少し分けてくださいな...(金子)

★年末になるとなぜだか無性に第九が聴きたくなります。

お金を貯めて、いつか本場ウィーンのニューイヤーズコンサートに行ってみたいなあと思う今日この頃です。(林)

★最近はGleeにハマりまして夜な夜な洋楽をよく聴いています。

それにしてもあの演出は楽しいですね！ヒロインがいきなり校内で歌い出したと思ったらバックで歌い手がどんどん増えていくというフラッシュモブを連想させるような。こんな演出、いつかやってみたいです！(宮下)

★AUTUMN タム、タム タム。 赤く染まった木の葉と緑の葉っぱ、

間をぬぐう幹の色、君たち五線に描かれた音符かな！

先に届けてね。北山保育園へ
桜並木の西街道を走る朝のスタート。(HM)

★夏の終わり:。

十四歳で箏曲の師範をとった母が倒れたが、
琴の音色で元気を取り戻しつつある。「芸は身を助く」と、実感。(宮澤)

★広報委員会に参加して初めてのインタビューと、まさかの特集。新聞記者さんと一緒にだったので、勉強になりました。(都築)

おかや音楽協会は、個人会員、団体会員、賛助会員を募集しています。
入会について、活動についてお気軽にお問い合わせください。

おかや音楽協会 人・音・夢

会報 MUSE(ミューズ) 2014年 冬号

発行元 おかや音楽協会

発行日 平成 26年 1月 15日

TEL : 0266-22-1965 (事務局 : 高木)

WEB : <http://okayaonkyo.com/>

おかや音楽協会 賛助会員のみなさん

今井整形外科医院

佐原音楽教室

(株)太田屋

宗教法人 照光寺

(株)オグチ楽器

たんぼぼ英語教室

(株)笠原書店

(株)豊島屋

(株)カネル

(有)ヌーベル梅林堂

(有)喜多屋醸造店

芳水園

サツマ外科医院

(株)丸真製作所

(敬称略・アイウエオ順)